写真によせて

キプリペディウム・エレガンス
Cypripedium elegans

札幌市　**梅沢　　俊**

山草会といえば盗掘､盗掘といえばラン、ランといえばアツモリソウ、これは昔日の山草会に持たれたイメージだろうか。今は違うよね。山草会といえば自然保護だろうか（笑)。ということで今回は昔日の山草会の象徴（？）であったアツモリソウを紹介する。その名もエレガンス！意味は説明する必要もないと思うが、「優美な」アツモリソウではある。

私は 2019 年夏にこのランをブータン中央部の山奥 2 ヵ所で見た。10 年ほど前には同じブータンは西部の山奥で見ているからこれで 3 ヵ所の産地を訪ねたことになる。

さてこの写真を見て気づくことは何だろう。そう、アツモリソウ属の植物としては葉が対生状となる独特の特徴を持っているのである。これは我が北海道の渡島半島と日高地方の一部にも分布しているコアツモリソウにも見られる特徴である。その点両種は似ているが、全草がほぼ無毛で葉の基部が円形となり、花が下向きになるコアツモリソウに比べエレガンスは茎に軟毛が密生し、縁毛のある葉の基部が切形で重なり合うように対生状となり、花は横向きに咲くことなどが相違点だろうか。

この原稿を書くに当って参考になる資料を探したがほとんど見当たらず、唯一あったのがフィリップ・クリッブ (Phillip Cribb) 著アツモリソウ属のモノグラフ『The Genus CYPRIPEDIUM』だった。

これによると、この種は中国～ヒマラヤ、つまりシノ・ヒマラヤに広く分布するが、属中最も人目に触れにくい種とある。基準標本の産地は中国南東部（チベット）Xizang である。そして中国雲南省で撮影された写真が 1 点。それを見てびっくり。私の写真とは袋状の唇弁の色が異なり、雲南省産は緑色なのである。この本でもこの現象に触れていて、掲載された写真からか“中国産のものは紫色のマークが入った緑色花”とあり、写真がないのか“ヒマラヤ産のものは全体が紫色をおびる”という報告があると表現されている。

もっと標本や写真の情報が増えれば、中国とヒマラヤ産のものとは変種関係になりそうである。

北海道の高山タンポポ

江別市　**大沼　弘樹**

高嶺のエゾタンポポ

山頂に這いつくばるように広がったササ原の一角に咲いていました。ひとまず消去法でエゾタンポポと同定しましたが、典型的なエゾタンポポよりも総苞外片が広がり気味で、所謂オダサムタンポポを思わせる姿をしています。過酷な風衝環境に生えるエゾタンポポは、このような姿になるのでしょうか。

タカネタンポポ

カンラン岩が露出した川沿いを歩くと、タカネタンポポが咲いていました。湿った崩壊斜面に生えた個体はオオタカネタンポポを連想させるほど立派ですが、車が頻繁に通る林道や、乾き気味の礫地に生えた個体は華奢な姿で、葉も花茎も、地面に張り付くように伏せていました。周囲には、エゾシカに齧られて地上部が無い個体も目立ったので、踏みつけや食害などの物理的ストレスへの適応なのでしょうか。外来タンポポ類であれば、多少食べられてもすぐに順次開花しますが、花期が限られ、自生地では栄養繁殖の形跡が見られないタカネタンポポの場合、食害によって個体群維持に悪影響が出ないものか気掛かりです。

立派なオオタカネタンポポ

占冠村内の車道を歩いていると、薄暗い林縁に草丈40cm近いオオタカネタンポポが咲いているのが見えました。あまりに逞しい姿に、最初はセイヨウタンポポかと思いましたが、よく探すと、数十m離れた川辺の蛇紋岩の岩場に、小ぶりなオオタカネタンポポが沢山生えていました。たいてい生存競争に追いやられるかのように、蛇紋岩の割れ目に咲いていますが、本当はちゃんとした土で育ちたいのでしょう。

私のタンポポたち

美唄市　**新田　紀敏**

実はタンポポの写真はあまり撮りません。掲載された写真もいつ、どのような状況で撮ったのかほとんど記憶にありません。フタマタタンポポはお目当ての植物一本に絞った山行だったので、あったことすら忘れていました。ヤナギタンポポに至っては、これは何だろうと思って撮った写真に違いありません。（敢えてタンポポらしく見えるカットを選んでみました。）それほど私の中では影が薄いタンポポたちですが、どこにでもあるので写真を探すと次々出てきます。残念なのは、どれもあまりきちんと撮っていないことです。これからは、たとえタンポポでも、ちゃんとした写真になるよう気合いを入れて写しておこうと思います。それにしてもこのような選択ができるのは、まったくもってデジタル写真と大容量ハードディスクそして強力な検索機能のおかげです。少しだけ私の整理が良かったことも貢献しました。

オオヒラタンポポ　2010年7月4日
大平山

セイヨウタンポポ　2018年6月5日
美唄市

フタマタタンポポ　2009年8月1日
ニペソツ山

フキタンポポ　2011年4月10日
苫小牧市樽前
ヤナギタンポポ　2009年10月3日
佐呂間町キムアネップ岬

タンポポと名がつく２種

釧路市　**佐藤　照雄**

シコタンタンポポ

この花を初めて見たのは、野付半島の道路沿いの見事な株の群落だったが、釧根地方の海岸沿いの植物を撮影するようになってから、よく出会う。このタンポポは、総苞片が濃い緑色で反り返らないとか、花が大きく縁に白い縁取りがあることなどは分かっていても識別に一瞬迷うことが多い。近年になって分布域が広がったように見えるのだが、交雑種などが混じっていないのだろうか。

2017年6月22日　釧路市音別町キナシベツ湿原

キバナコウリンタンポポ

この「タンポポ」は、日当たりの良い空き地や道路脇の法面などで一斉に咲き誇り、いまや初夏を告げる花の一つとなりました。近年は市街地の公園などでも、別種である鮮やかなオレンジ色のコウリンタンポポと混生した見事な大群落を良く見かけるようになったが、繁殖力は半端ではないようで、生態系にどんな影響を及ぼしていくのでしょう。

2017年7月2日　釧路市内

クモマタンポポ

江別市　**中川　博之**

クモマタンポポの写真無いですか?と連絡があって考えてみると、いつもの1ヶ所しか見たことがないことに気付きました。そう白雲避難小屋のすぐ近くです。高山植物の大先生によると昔は無かったそうで、誰かが植えたものだろうとのこと。ハードディスクを検索し、出てきた写真は今回の残念な写真数枚。自身の調査データにもクモマタンポポは一度たりとも出ていませんでした。相当少ないということにしておきます。今度白雲避難小屋に行ったら、「あっクモマタンポポね」と素通りしたり、一瞥して上からカメラを向けてシャッター押すのは止めます。何より本来生育地で見てみたいものです。

この原稿を書いていた時、白雲避難小屋建て替えを知りました。植えられたものかもしれないけれど、無事を祈ります。

シロバナタンポポ

札幌市　**本多　丘人**

その昔、大分県から来ていた学友が、あちらではタンポポは白いものだと言っていたのを憶えている。Webフリー百科事典Wikipediaには「本種は日本在来種であり、本州関東以西、四国、九州に分布し、西の方ほど多い。北限は定かではないが、北海道松前町龍雲院の境内で確認されている。」との記載がある（2019.12.23確認）。おそらく過去に持ち込まれたものに違いないが、

重要文化財であることも知らずにたまたま訪れた龍雲院ではちゃんと立派に花をつけていた。2017 年 5 月 12 日撮影。

コウリンタンポポ

千歳市　**五十嵐　博**

コウリンタンポポ *Pilosella aurantiaca* はタンポポ属ではなく、コウリンタンポポ属で別名はエフデタンポポである。過去にはヤナギタンポポ属であったがキバナコウリンタンポポ、ハイコウリンタンポポとともにコウリンタンポポ属に変更された。

画像は 2009 年 6 月 7 日に札幌市南区石山で撮影したものである。全道各地にはびこっている外来植物で特に道北での確認が多い印象である。

ムラサキタンポポ（センボンヤリ）

千歳市　**若松久仁男**

春の花を探しに山へ入るとよく見かけますが、ムラサキタンポポという別名があることを知りませんでした。赤や紫の花があるということのようですが、まだ見たことがありません。是非見たいものです。

因みにセンボンヤリというのは、秋に高く伸びて咲く閉鎖花を槍に見立てて付けられたようです。この閉鎖花が群生しているのを見ると名前の由来に納得です。

2016.5.14　幌満峡

会員が撮影したキクの仲間１

上：オオヒラウスユキソウ 2010.7.4 大平山
左：アポイアズマギク 2007.6.3 アポイ岳
撮影：新田 紀敏

北海道のアザミ属

仙台市　**国京　潤一**

北海道のアザミ属はエゾノキツネアザミ節・タカアザミ節・ナンブアザミ節からなり、さらにナンブアザミ節はノアザミ亜節・エゾノサワアザミ亜節・サワアザミ亜節・チシマアザミ亜節・タチアザミ亜節・キタカミアザミ亜節・ヒメアザミ亜節の 7 亜節に分類され、外来種の 2 種を含めると 24 種（雑種は除く）が観察されます。

エゾノキツネアザミ節・・・・・	エゾノキツネアザミ	苫小牧市北栄町	2019.08.25
タカアザミ節・・・・・・・・	タカアザミ	幌加内町母子里	2019.08.10
ナンブアザミ節			
ノアザミ亜節・・・・・・	アオモリアザミ	松前町字上川	2019.09.15
エゾノサワアザミ亜節・・	アポイアザミ	様似町幌満	2019.07.07
	エゾノサワアザミ	千歳市美々	2019.06.30
	エゾノミヤマアザミ	上川町赤岳	2019.08.31
	エゾマミヤアザミ	根室市歯舞	2019.08.03
	（仮称）エゾキレハアザミ	猿払村浅茅野	2019.07.14
サワアザミ亜節・・・・・	サワアザミ	北斗市茂辺地市ノ渡	2019.09.16
チシマアザミ亜節			
チシマアザミ列・・・・	チシマアザミ	上川町赤岳	2019.08.31
	テシオアザミ	中頓別町松音知	2019.06.22
	シコタンアザミ	浜中町琵琶瀬	2019.07.21
コバナアザミ列・・・・	ヒダカアザミ	浦河町字上杵臼	2019.07.07
	カムイアザミ	様似町潮見台	2019.07.07
	チカブミアザミ	深川市納内町	2019.06.23
	アサヒカワアザミ	鷹栖町二十七線	2019.07.22
	コバナアザミ	旭川市神居古潭	2019.06.23
	（仮称）ソウヤアザミ	稚内市宗谷村清浜	2019.07.14
タチアザミ亜節・・・・・	マルバヒレアザミ	長万部町字双葉	2019.06.29
	ミネアザミ	森町字駒ケ岳	2019.09.16
キタカミアザミ亜節・・・	リシリアザミ	利尻富士町鬼脇字南浜	2019.07.27
ヒメアザミ亜節・・・・・	エゾヤマアザミ	白老町字石山	2019.09.07
外来種・・・・・・・・・・	セイヨウトゲアザミ	江別市大麻	2019.07.13
	アメリカオニアザミ	江別市大麻	2019.07.13

コハマギク（裏表紙）

美唄市　**新田　紀敏**

晩秋の立待岬です。展望台の足元からコハマギクがたくさん咲いていました。西側の崖に目をやると、ずっと花が続いていました。先端のこぼれ落ちそうな株を見ていると、どうしてこんなところが好きなのだろうかと不思議ですが、競争相手がいない安住の地なのでしょう。

2010. 10. 17　函館市立待岬

会員が撮影したキクの仲間 2

左：エゾノチチコグサ 2010.6.19 木禽岳
右：アキタブキ　2017.4.3 美唄市
下：オオウサギギク 2009.8.22 ピンネシリ
撮影：新田 紀敏